

事務事業評価シート兼総合計画実施計画書

作製日 令和元年7月1日

事業ID	197	2次評価	-	分野	3	03 3教育・学習	課名	生涯学習課
事業コード	00007	対象外事業	-	基本施策	2	02 2学びあい、教えあいのなかまづくり	班名	生涯学習班
事業名	青少年ふれあい交流事業			大施策	3	03 3青少年の健全育成		
				小施策	1	01 1地域ぐるみでの青少年の育成活動		

◆事業の説明

◆事業の予算

(単位:千円)

事業の概要	戸沢村と中井町の小学6年生が相互訪問し、お互いの町村の人や自然、歴史、風土、産業など貴重な異文化や生活体験を通して、将来、積極的な行動力と広い視野を持ち、思いやりの心をもつ豊かな人づくりを目指す。 ・平成3年に第1期交流事業が開始された。 ・小学6年生(各10人)を対象とし、夏期・冬期交流でそれぞれを訪問	会計	款項目	大事業	青少年活動費		
			H30決算額	R1決算見込	R2事業費	R3事業費	R4事業費
		直接事業費	1,115	0			
		人件費	1,478	0			
		事業費合計	2,593	0			
補足説明	・平成12年6月10日「災害時における相互応援協定に関する協定」締結 ・平成22年8月7日「青少年育成連携協定」締結	国庫支出金	0	0			
根拠法		県支出金	587	0			
計画等	第三次中井町生涯学習基本計画	地方債	0	0			
		その他	0	0			
		一般財源	2,006	0			

◆事業の対象・活動・成果

◆事業の指標

対象(誰・何に)	・小学校6年生	対象(誰・何に)	指標	単位	H30実績	R1見込	R2計画	R3計画	R4計画
			参加者(中井町児童)	人	10	10	10	10	10
活動(何を)	・お互いの町村を相互訪問	活動(何を)	参加者(戸沢村児童)	人	7	10	10	10	10
					0	0	0	0	0
成果(めざす形)	・将来、積極的な行動力と広い視野を持ち、思いやりの心をもつ豊かな人づくりを目指す。 ・交流終了後も引き続き友人関係が続いている子どもも少なくない。 ・青少年交流をきっかけに、農産物等の物産交流も行われている。	成果(めざす形)			0	0	0	0	0
			参加者累計(中井町児童)	人	439	449	459	469	479
			参加者累計(戸沢村児童)	人	432	442	452	462	472
					0	0	0	0	0

◆事業の現況評価

◆事業の状況・課題・提案・方針

必要性	事業の必要性は薄らいでいませんか? [3点] どちらとも言えない		状況	・平成30年度で第28期目を迎え、延べ871人(中井439人、戸沢432人)の児童が交流に参加 ・令和2年度には30周年を迎える。 ・節目の年には記念誌の作成や式典を開催している。
必然性	行政が関与しなければならぬ事業ですか? [4点] おおむね目標水準に達している		課題	・少子化が進む中、当初の応募者が少ないことがあり、お互いに参加者を探すのに苦慮することがある。特に戸沢村においては対象学年が30人程度になっている。 ・こういった事業に参加しようとする意欲のある児童、また参加を進める保護者が減少している。
緊急性	即座に対応しなければならぬ事業ですか? [3点] どちらとも言えない		提案	・本事業においてホームステイは大きな柱であるため、原則無くすことはしたくないが、ホームステイを苦にし参加をしない家庭もあるため、参加者が少なく事業自体の継続が難しくなるようであれば、ホームステイの廃止も検討する必要がある。
実効性	手段(やり方)は適切なものとなっていますか? [4点] おおむね目標水準に達している		方針	・この交流事業によって育まれた相互の友好関係を更に促進するためにも、引き続き本事業を継続実施し、青少年の健全育成に取り組む。 ・今後、令和2年度の30周年に向けた検討を進める。
時代即応性	事業の目的が色あせていませんか? [4点] おおむね目標水準に達している		一次評価(主管課)	②現状維持
持続可能性	やればやるほど職員の負担となっていないですか? [3点] どちらとも言えない		二次評価(内部評価)	-
評価理由	・交流を終えた参加児童は、皆良い体験ができたこと答えている。 ・ニーズと必要性は必ずしも比例せず、必要性という点では、貴重な体験ができ青少年健全育成の観点からも必要性の高い事業であるといえる。			